

## 【プラスアルファ法律学 模擬裁判】(木曜日 5 時限)

堀口 愛芽紗

### 講義のねらい

法学部に進学すると「将来は法曹（裁判官・検察官・弁護士）になるのだろう」と漠然と想像する人も少なくありません。しかし実際には、法学の知識が活かされる進路は多様であり、弁護士の仕事一つをとってもその内容はさまざまです。さらに、企業で法務を担う仕事、警察官を含む公務員など、法を学ぶことが直接・間接に結びつく職業は数多く存在します。

本講座は、そのような法学の広がり意識しながら、「裁判」という具体的な場面を通して、法がどのように使われ、どのように機能しているのかを学ぶことを目的としています。

大学で法学を学ぶ際、多くの場合、憲法・民法・刑法といった基本科目から学習が始まります。本講義では、これらの法律が実際に用いられている場である刑事・民事の裁判手続をたどりながら、裁判がどのように進行し、どのような考え方によって判決が導かれるのかを体感的に学びます。これは、大学での法学学習をより深く、より面白く理解するための、最良の準備となるでしょう。

裁判は、同じ事実関係からでも、立場によって異なる評価が導かれ、言葉の選び方や証拠の示し方によって結論は大きく変わります。本講義では、実際の裁判例を題材とした模擬裁判を、法曹三者の役割を担いながら、「なぜその結論に至るのか」を自分の言葉で説明できる法的思考力を養います。

### 講義の内容・授業スケジュール

前期は刑事裁判を取り上げ、逮捕・勾留から起訴、公判までの流れを確認した上で「殺意はあったのか？」などの争点を、証拠に基づいて検討します。捜査資料から人物相関図や時系列を作成し、複雑な事案を整理・分析する力を鍛えます。そして実際に検察官・弁護人・裁判官などの役割に分かれ冒頭陳述要旨、判決文などの法律文書を実際に作成します。そして、模擬法廷で裁判を実演します。これまでの学びを総動員し、尋問や論告・弁論を行います。また、判例検索データベース (LEX/DB) を用いたリサーチ手法も学びます。

後期は民事紛争の解決プロセスである交渉、調停、訴訟のすべてをシミュレーション形式で体験します。売買交渉や労使間交渉など、身近な題材を扱いながら、相手と交渉し、第三者として調停し、そして裁判に至るプロセスを実践します。これにより、法曹志望者だけでなく、民間企業への就職を目指す方にとっても不可欠な交渉力、傾聴力、論理的思考力を養います。刑事裁判との違いにも注目しながら、民事紛争解決の特徴を理解します。

授業は参加型で進めますが、専門的な予備知識は必要ありません。初めて法律を学ぶ学生にとっては、裁判の基本構造を無理なく理解するための導入となり、これまで法律を学んできた学生にとっては、断片的な知識を整理し直し、「法を使う」視点を身に付ける機会となるでしょう。

学年や経験を問わず、リーガルマインドを養い、法学の学びを立体的に捉えたいと考える学生の参加を歓迎します。

### 前期：刑事裁判編

- 第1～4回：刑事裁判の基本構造の習得（起訴、審理、判決の流れ）
- 第5～9回：模擬刑事裁判に向けた準備（事案分析）
- 第10～14回：模擬刑事裁判の実施と振り返り

### 後期：民事裁判・ADR編

- 第1～4回：交渉・調停の基礎の習得（ケーススタディを用いた実践）
- 第5～8回：模擬調停・裁判の準備（争点整理・法的主張の組み立て）
- 第9～11回：模擬民事裁判の実施と振り返り

### 【授業外の学びについて】

授業の理解を深めるため、裁判傍聴や警視庁見学、裁判員ラウンジへの参加等のフィールドワークを実施する場合があります。

### 教科書等

※必要な資料はその都度配布します。六法を持参してください。

#### 【参考書籍】

1. コリン, シール (2020=2023) 『法教育の教え方と学び方』(太田勝造監訳, 堀口愛芽紗・大塩浩平訳) 弘文堂
2. 太田勝造・草野芳郎編著 (2013) 『ロースクール交渉学 (第2版)』白桃書房
3. 飯考行編著 (2024) 『ディスカッション法と社会』八千代出版
4. 司法研修所監修 (2009) 『刑事第一審公判手続の概要 (平成21年版) —参考記録に基づいて—』法曹会
5. 司法研修所慣習 (2023) 『対話で進める争点整理』法曹会
6. 四宮啓・城祐一郎・宮木康博 (2024) 『Practical Studies 刑事訴訟 この事件を裁くのはあなたです』成文堂
7. レビン小林久子著 『調停者ハンドブック—調停の理念と技法』信山社